

学報

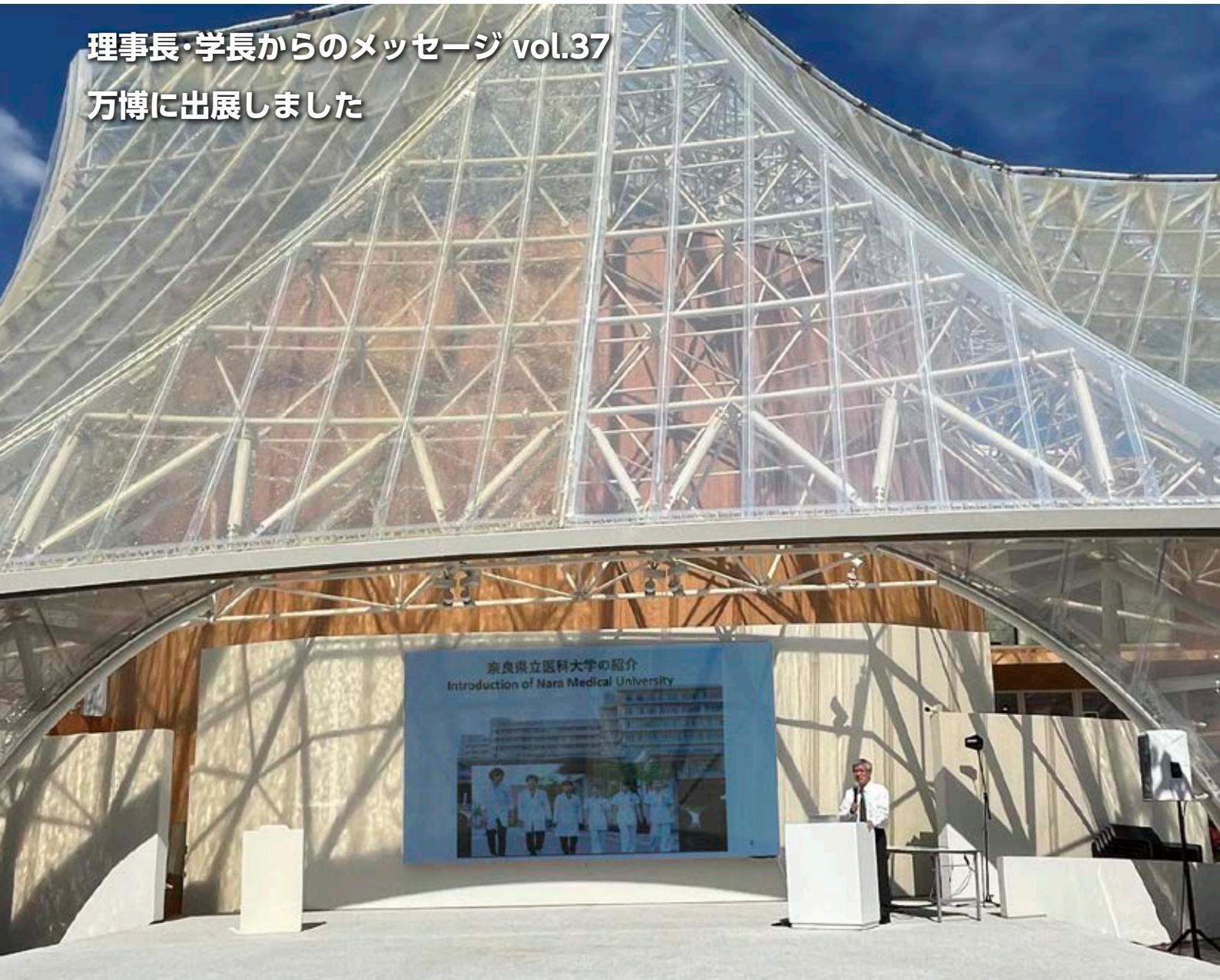
NARA MEDICAL UNIVERSITY

Special Feature

vol. 94 2025
秋号

理事長・学長からのメッセージ vol.37

万博に出展しました



奈良県立医科大学
Nara Medical University

Contents

特集	理事長・学長からのメッセージvol.37	3
	西日本医科学生総合体育大会が開催されました	4
	第3期中期目標期間の業務の実績に関する評価結果	6
	研究紹介	8
	MBT研究所だより(第38報)	9
	国際交流センターだより vol.21	10
	安全保障輸出管理への取り組み vol.7	11
	Topics	12
	図書館だより	13
	未来への飛躍基金だより	14
	看護部の紹介	15
	先端医学研究支援機構だより	16
	働き方改革だより	18
Campus News	第248回日本内科学会 近畿地方会医学生セッションで発表しました	19
	MBT 特命教員による学生への特別講義	19
	UP DATE EARTH イノベーションスクールを開催しました	19
	万博に出展しました	20
	葛城市 未来人材育成事業 共催「めざせ未来のドクター！」	20
	奈良県立医科大学医師体験ツアーを実施しました	20
	看護学科オープンキャンパス 2025 を開催しました	20
	令和7年度コンソーシアム実習(奈良医大・早大連携講座)を開催しました	21
	医療モビリティ博に出展しました	21
	MBT 難病支援WEB セミナーを開催しました	21
	医学科看護学科合同科目「次世代医療人育成論」を開講しました	22
	同志社女子大学と合同講演会を開催しました	22
	第78回解剖慰靈祭を執り行いました	22
	NARA 医工連携イニシオを開催しました	23
	実験動物慰靈祭を執り行いました	23
	奈良健康フェア 2025 を開催しました	23
Winner Report	第79回 NPO 法人日本口腔科学会学術集会において若手優秀ポスター賞を受賞しました	24
	第11回 肝臓と糖尿病・代謝研究会において Young Investigator Award を受賞しました	24
	第52回日本銅センター賞を受賞しました	24
	日本精神神経学会国際学会発表賞を受賞しました	24
	第152回近畿産科婦人科学会学術集会において受賞しました	25
	アジア婦人科腫瘍学会(ASGO) 2025において Young Doctor Award を受賞しました	25
	第32回日本門脈圧亢進症学会総会で演題賞を受賞しました	26
	MBT特命教授コシノジュンコ先生が令和7年度 文化勲章を受章されました	26
寄附者ご芳名	「未来への飛躍」基金にご協力いただきありがとうございました	26
Information	公開講座情報	27
	令和8年度 入試日程【医学部】	27
	メディア掲載情報	28
	編集後記	28

理事長・学長からのメッセージ vol.37

理事長・学長 細井 裕司

奈良医大の学歌から考えたこと －奈良医大は誰のために存在するのか－

平成 29 年に本学のシンボルマークおよびイメージキャラクターが制定されましたが、入学式や卒業式で歌われる歌はありませんでした。この度、本学の 80 周年記念および新キャンパス開設を契機に、法人としての学歌、奈良県立医科大学学歌「奈良から世界へ」が制作されました。そして、その披露にあたり、本学の学生や教職員のみならず、奈良医大に関わるすべての皆様とともに大合唱できたことは記憶に新しいことと思います。

さて、奈良医大は誰のために存在するのでしょうか。奈良医大を支えていただいている方は極めて多いと思います。教員（医学科、看護学科）、学生（医学科、看護学科）、職員（大学職員、病院職員）、患者さんとご家族、そして医学科・看護学科それぞれの卒業生の皆様や奈良県民の皆様などです。奈良医大は誰のものであるべきかと考えた時、私は、誰か特定の方のためではなく、奈良医大を支えていただいているすべての方のものであるべきだと考えています。これは、文科省が提唱する「開かれた大学づくり」(https://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/daigaku/index.htm) に通じるものですが、文科省が提唱するからではなく、奈良医大は自らが積極的に世の中に開かれた大学になることによって、その存在感を大きくすると信じているからです。

幅広い層の人が「奈良から世界へ」を愛唱することで、多くの人々と共に開かれた大学として、全国に世界に発展していくものと確信しています。

改めまして、奈良医大は、奈良医大を大切に思うすべての人のための大学です。学歌はその象徴であり、奈良医大の未来を共に支える人々の心を結ぶものでありたいと考えています。



こちらから学歌が試聴いただけます▶



本号の表紙について

大阪・関西万博 2025において、大阪ヘルスケアパビリオン、関西パビリオンに開設した奈良医大ブースには、数万人の来場者にお越しいただき本学を広く紹介する機会となりました。また、会場内のステージにおいて 4 月 30 日と 9 月 30 日の 2 回、奈良医大を紹介する講演を行いました。

西日本医科学学生総合体育大会が開催されました

西医体で学生が躍動！ クラブ活動への情熱を存分に發揮！

弓道部：男子団体 準優勝、男子個人 準優勝、男子個人 3位

女子個人 3位、女子優秀射技賞

柔道部：女子個人 準優勝

陸上競技部：男子円盤投げ 2位、男子砲丸投げ 3位

女子やり投げ 2位

ゴルフ部：男子個人 3位

空手道部：女子個人形 3位

この夏、第77回西日本医科学学生総合体育大会が開催され、奈良県立医科大学の全19クラブが出場しました。今年度は開催地での天候不良で一部スケジュール等が変更となった競技もありましたが、どのクラブも力の限りを尽くし、表のような成績をおさめました。

今年度は、全医体（全日本医科学学生体育大会王座決定戦＜西医体と東医体の上位校が出場＞）に弓道部、ゴルフ部、卓球部が出場します。

この4月より、クラブ活動は畠傍山キャンパスの体育施設で行っています。学業とクラブ活動を両立させ、今後ますます多くのクラブが躍進することを期待しています。

◇期 間：令和7年8月4日～8月21日

◇主 管：九州・山口ブロック

◇代表主管校：鹿児島大学

◇参加大学数：44校

◇競技種目：20種目

出場クラブ	成 績
硬式テニス部	男子 2回戦敗退 女子 1回戦敗退
軟式テニス部	男子 2回戦敗退 女子 3回戦敗退
ラグビー部	ベスト4（大阪大学、京都大学合同チーム）
サッカー部	2回戦敗退
野球部	ベスト16
バドミントン部	男子 団体2回戦敗退 個人シングルベスト16 女子 団体3回戦敗退
卓球部	男子 2回戦敗退 女子 6位
バスケットボール部	男子 3回戦敗退 女子 エントリーなし
バレーボール部	男子 ベスト8 女子 2回戦敗退
水泳部	男子 入賞なし 女子 6位
弓道部	男子 団体準優勝 個人準優勝および3位 女子 個人3位 女子優秀射技賞
ハンドボール部	7位
柔道部	男子 団体予選リーグ敗退 女子 個人準優勝
合気道部	団体入賞なし 個人入賞なし
空手道部	男子 団体予選リーグ敗退 女子 個人形3位
陸上競技部	男子 円盤投げ2位 砲丸投げ3位 ハンマー投げ6位 女子 やり投げ2位 円盤投げ6位
ゴルフ部	男子 団体10位 個人3位 女子 個人77位
剣道部	男子 団体予選リーグ敗退 女子 エントリーなし
ヨット部	スナイプ級総合12位

弓道部

医学科4年 寺谷 仁良

昨年度に引き続き、男子団体戦で準優勝を果たすことができました。主将として過ごした一年間の日々の努力が実を結ぶことができホッとしています。また、今年度の大会では個人戦でも三名が入賞いたしました。OB・OGの先輩方や師範の先生方、現役部員の仲間たち、そして共に支え合った同期全員の力で成し遂げられたのだと強く感じます。

今年度から畠傍山キャンパスへ活動場所が移動し、素晴らしい環境の中で部活動に励むことができ心から感謝しております。男女とも団体戦優勝、そして個人戦で奈良医大が独占できるほど強くなれるよう部員一同頑張ってまいります。今後とも奈良医大弓道部をよろしくお願い申し上げます。



柔道部

医学科3年 内田 さくら

今回の西医体で結果を残すことができたのは、よき同期や後輩の存在に尽きたと感じています。4月から新たに多くの1年生が加わって新チームとなり、経験者と初心者が学年の壁を越えて成長していくことのできるよい環境となりました。個人競技ではありますが、チームとしての総力をあげ、団結力のある強い柔道部へと成長してまいります。

最後になりましたが、日々ご支援、ご指導いただきております先生方に心より感謝申し上げます。結果にこだわるのはもちろんのこと、納得のいくよい試合ができるよう部員一同、稽古に励んで参りますので今後ともよろしくお願いいたします。



陸上競技部

医学科3年 田守 雅治

今年の西医体では5種目で入賞、3種目でメダルを獲得できました。今回は投擲種目での活躍が中心でしたが、惜しくも入賞は逃したものの男子1500mでは決勝に3名が進出しました。また6月29日の関西医学生対校陸上競技選手権大会では男子4×100mリレーで3位入賞するなど、短距離・長距離においても好成績を残すことができています。

陸上競技は基本、個人戦ですが、総勢28名の部員全員で雰囲気よく練習し、高めあいながら頑張っています。来年はより多くの種目、より上の順位での入賞を目指して精進いたします。

最後になりますが、平素よりご支援いただいているOB・OGの先生方には改めて感謝申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



ゴルフ部

医学科6年 片谷 大樹

第77回西医体ゴルフ部門は、男子部門は島津ゴルフ倶楽部にて8月6日から8日に、女子部門は高牧カントリー倶楽部にて8月19日から20日に開催されました。本大会において男子個人3位入賞という成績を収めることができました。また、今回の結果により、10月に開催される全医体への出場が決まりましたので、優勝目指してより一層練習に励んでまいります。

最後になりましたが、日々ご支援いただいている先生方に感謝申し上げます。今後もさらなる高みを目指して精進して参りますので、何卒宜しくお願い致します。



卓球部

医学科3年 小川 耀生

昨年度に引き続き今年度も女子団体で全医体出場権を獲得することができ、とても嬉しく思います。応援いただいた皆様に心より感謝申し上げます。今回女子団体は準優勝した昨年度からメンバーが複数名入れ替わった新体制で臨み、厳しい戦いもありましたが、その中でまた全医体に出場できることになったのは普段から部員一人ひとりが互いに教え合い高め合いながら地道に練習してきた結果だと思います。

団体戦だけでなく個人戦も、大学から卓球を始めた選手が勝ち上がるなど今までの練習の成果がよく見られた大会であったと思います。これからも一勝でも多く挙げられるよう、部員一同精進して参ります。



第3期中期目標期間の業務の実績に関する評価結果

この度、本法人の評価「第3期中期目標・中期計画（2019年度～2024年度）」に対する県評価委員会結果が通知されました。地域貢献・教育・研究・診療・法人運営の5区分、計21項目について、すべてが良好との高い評価をいただきました。不十分と評価された項目は1つもありません。

中でも、奈良医大の特色であるMBT活動、研究力の向上、奈良先端大等他学との連携については最高の評価をいただきました。評価結果の詳細については、大学ホームページをご覧ください。

<https://www.naramed-u.ac.jp/university/gaiyo/kekaku-hyoka/gyomujoho2/gyoumujo3.html>
(大学ホームページ > 大学概要 > 大学の計画と評価 > 業務に関する情報 > 第3期 > 業務実績評価結果)

このように、すべて外部の委員で構成する県評価委員会から高評価を得たということは、教職員の皆様が普段から、学生のため、患者様のため、そして本学及び地域の発展のためにご尽力いただいた結果だと思っております。あらためて感謝申し上げます。

引き続き、皆様方のより一層のご尽力とご協力をいただきますようよろしくお願いします。

理事（総務・経営担当）・事務局長 木村 茂和

第3期中期目標・中期計画の業務実績 評価結果の概要

全体評価

第3期中期目標・中期計画の業務実績については、**中期目標・中期計画の達成状況が全体として良好である**と認められる。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、対面授業や病院実習、国内外での研修が十分に行えないなどの影響があったが、オンラインやシミュレータを活用するなど代替的な取組を実施し、コロナ禍以後も感染対策を行った上で、中期目標・中期計画実現に向け取組を継続した。また、新型コロナウイルス感染症患者を重点的に受け入れる重点医療機関として、多数の専用病床の確保、重症患者の受け入れをはじめ、他の医療機関や福祉施設等への感染防止対策の助言・指導など、新型コロナウイルス感染症対策にに関して、県民を守る「最終ディフェンスライン」として多大な貢献をした。

項目	評価	内容
I. 地域貢献		
〈教育〉	IV	中期目標の達成状況が良好である
〈研究〉	V	中期目標の達成状況が極めて良好である
〈診療〉	IV	中期目標の達成状況が良好である
II. 教育	III	中期目標の達成状況が概ね良好である
III. 研究	V	中期目標の達成状況が極めて良好である
IV. 診療	IV	中期目標の達成状況が良好である
V. 法人運営	III	中期目標の達成状況が概ね良好である

(価値目標に記載された事項をほぼ100%計画どおり実施している⇒評価Ⅲ)

項目別評価

I. 地域貢献<教育関連> 評価：IV

注目される取組(評価の高い事項)
◇特定行為研修を修了した看護師・専門看護師を増やすため、意向調査面接を行い、キャリアサポートを実施した。
など

課題
◇卒業後に看護師を経験してから保健師になることを希望する者がいることを考慮し、既卒者も含めた保健師の県内就業率を調査したところ、目標値は概ね達成することができているが、令和2年度から令和4年度まで新型コロナウイルス感染症の影響で保健所実習は学内実習としていたこともあり、看護学科卒業生の保健師県内就業者数の増加目標の達成には至らなかった。

I. 地域貢献<研究関連> 評価：V

注目される取組(評価の高い事項)
◇MBTを核とした多様な産学官連携を推進し、研究成果の社会還元や地域貢献、難病克服支援などを実施した。など

I. 地域貢献<診療関連> 評価：IV

注目される取組(評価の高い事項)
◇令和元年度から令和6年度の6か年で19名のDMAT隊員を養成することにより、計4チームのDMATチームを新たに育成した。また、毎年度、計3回の訓練にDMATチームを派遣し、さらなる技術向上を図った。など

課題
◇臨床研究中核病院の承認にかかる施設要件及び人員要件については、令和元年度より継続的に研究支援者を確保し、求められる要件をほぼ充足させたが、研究実績については、研究相談事業や臨床研究経験の少ない診療科への研究実施の働きかけなどを行ったものの、研究成果をあげるまでに時間を要することや、医師の働き方改革により研究のための時間確保が困難になってきたこと等の情勢変化もあり、承認要件の一部が未充足となった。そのため、臨床研究中核病院の承認申請には至らなかった。

II. 教育 評価：III

注目される取組(評価の高い事項)
◇令和5年度に看護学研究科博士後期課程設置の承認が得られたことにより、入学者選抜を行ったところ、定員2名に対し6名の志願があり、選考の結果、3名の入学者を受け入れた。など

III. 研究評価：V

注目される取組(評価の高い事項)

- ◇研究支援体制の強化に向けて、令和元年度には「研究力向上ワーキング」を設置し、研究推進戦略会議と連携しながら、課題整理と行動計画の策定を行った。令和2年度には、研究の入口から出口までを包括的に支援する「先端医学研究支援機構」を新設した。構成機関として、医学研究支援センター等を整備し、専門人材を段階的に配置した。
 - ◇奈良先端科学技術大学院大学との共同研究をさらに推進するため、令和4年度に「連携活性化推進室」を設置し、設備・研究機器の相互利用環境の整備を進めた。令和6年度には両大学の組織連携を制度的に担保するため「一般社団法人奈良先端医工科学連携機構」を設立した。文部科学省より大学等連携推進法人としての認可を取得し、医療×工学による地域創生と研究基盤の強化が一層期待される体制となった。など

課題-

- ◇女性研究者支援としては、研究支援員配置制度を継続的に実施し、年間8～14名を対象に支援を提供した。支援対象は週5日勤務の医員にも拡大し、ライフイベントや介護と両立しながら研究を継続できる環境整備を進めたが、女性研究者数の増加目標の達成には至らなかった。

IV. 診療 評価：IV

注目される取組(評価の高い事項)――

- ◇患者満足度調査を実施し、年度ごとの満足度の推移を把握した。また、患者満足度調査及び声のポスト等の意見を基に、患者の利便性向上、患者サービス向上のための施設改修、運用の見直し等を実施した。など

課題

- ◇特定行為研修修了者等の専門性の高いスキルを有する看護師は、令和6年度には38人（令和元年度：8人）と着実に増えており、認定看護師教育課程への志願者も増加している。一方で、認定看護師の育成を行う教育機関ではカリキュラム改正によって教育機関が年々減少し、それに伴い定員も減少した。その結果、受験倍率の上昇等が要因となり、認定看護師育成に影響が生じ、認定看護師等の増加目標の達成には至らなかった。

V. 法人運営 評価：Ⅲ

注目される取組(評価の高い事項)――

- ◇看護師の負担軽減のため、看護師WGにおいて始業前超勤の縮減、一部病棟における障害者雇用へのタスクシフトや夜間看護補助者の導入を実施した。など

奈良県公立大学法人奈良県立医科大学評価委員会 委員名簿

氏名	役職等
◎垣内 喜代三	国立大学法人 奈良先端科学技術大学院大学 名誉教授
竹田 幸博	地方独立行政法人 埼玉県立病院機構 理事
任 和子	国立大学法人 京都大学 大学院 医学研究科 教授
町田 泰昭	町田社会保険労務士事務所 代表
松村 泰志	独立行政法人 国立病院機構大阪医療センター 院長

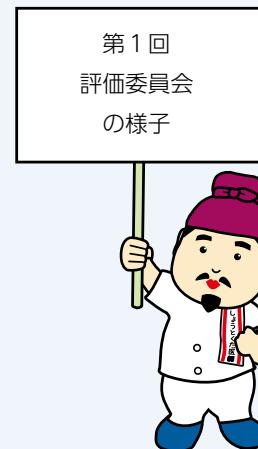
(五十音順 敬称略 ◎は委員長)

第1回 評価委員会

日時：令和7年7月29日（火）13:30～
場所：奈良県立医科大学 故傍山キャンパス
講堂図書棟3階 応接室

第2回 評価委員会

日時：令和7年8月15日（金）13:00～
場所：奈良県庁本庁舎5階 第1会議室



遊び心と研究

泌尿器科学 教授 藤本 清秀



私は1987年に卒業し、2年の臨床研修を終え、何か研究をしてみたいという遊び心から本学大学院に進学し、当教室の伝統的研究テーマであったラット・マウスやビーグル犬の化学発がんモデルによる膀胱がんの自然史の解明に関わることになりました。1991年当時の岡島英五郎教授と国立がんセンターの垣添忠生病院長のご高配により、同センター研究所分子腫瘍学部（寺田雅昭部長）にリサーチアソシエイトとして国内留学しました。花の都大東京での興味津々の独身生活と全国から集まった研究者と朝から深夜までの研究三昧。今は多くの手技がキット化され隔世の感がありますが、当時はプライマー作製、クローニング、ブロッティング、シーカンス、免疫染色などなど、ほとんどの分子生物学の手技を自身の手作業で行いました。私の研究室では、増殖（血管新生）因子やがん遺伝子／がん抑制遺伝子の同定と機能解析が盛んで、私も膀胱がんの悪性進展の鍵となる遺伝子を探し、そのひとつであるp53遺伝子の異常が膀胱がんの自然史において重要な遺伝子であることを見出しました。また、腎癌においてもbasic fibroblast growth factor (FGF) や vascular endothelial cell growth factor (VEGF) などの血管新生因子の関与を見出しました。およそ30年の歳月を経て、膀胱がんではp53遺伝子変異やFGF受容体が悪性度のマーカーや治療ターゲットとして、腎癌ではVEGFやFGF受容体の阻害薬が臨床現場で使われるようになりました。1994年には、やはり遊び心も手伝って、米国イリノイ州シカゴにあるNorthwestern Universityの病理部門（大保亮一教授）に留学しました。膀胱がんの発育と進展機構にepidermal growth factor (EGF) とEGF受容体が関係することをラット膀胱化学発がんモデルで証明しました。研究に専念しつつも、海外での新婚生活も楽しむことができましたし、多くに留学生とも親交が深まり、今も公私のお付き合いが続いています。

留学から戻ると臨床中心の生活が暫く続きましたが、2000年頃から当時の平尾佳彦教授の指導の下、膀胱がんに光力学診断を導入するため、診断薬であるアミノレブリン酸の薬事承認を目指して高度医療、治験、多施設共同臨床試験を他大学の先生方と取り組み、2017年に薬事承認を得ました。膀胱がんは内視鏡手術で治療されることが多く、見落としによる残存腫瘍や非可視病変による再発という課題があり、光力学診断技術を臨床に導入できることは画期的でした。臨床研究はもちろんですが、また遊び心からアミノレブリン酸に関する基礎研究にも興味が湧き、光力学診断を細胞診に応用する研究を始めました。研究費を獲得し、光力学診断を細胞診で自動化する機器の開発に携わりました。また診断だけでなく、アミノレブリン酸が本来有するミトコンドリア機能の活性化に注目し、癌治療の効果増強と副作用軽減に関する研究も行いました。同時に泌尿器光力学研究会を立ち上げ、他大学との多施設共同研究にも着手し、ランダム化比較試験などの研究活動を展開しています。

自身が関わった研究の成果が臨床へ還元されるには長い年月が必要ですが、臨床現場で実用化された姿をみることは大きな喜びとなります。臨床医が限られた時間の中で知識と技術を身に付け、基礎研究に没頭することは貴重な経験です。この間、教室の同僚や先輩後輩には迷惑や負担を掛けることがあります、相互通じです。基礎研究と臨床研究の両者を同時並行で遂行することの大切さと面白さも知り、泌尿器科では常に15件ほどの新規薬剤開発のための治験と50件以上の臨床研究を行っています。忙しいことは重々承知のうえですが、若い先生方には是非、難しく考えずに遊び心でもって、基礎・臨床研究の双方に向き合って欲しいと思います。

MBT研究所だより (第38報)

1. 組織間連携の拡大

MBT研究所は包括連携協定の締結など、組織間連携の拡大を図ってまいりました。その一部をご紹介いたします。

(1) 奈良医大、MBTコンソーシアムの組織間連携

2024年8月22日、本学およびMBTコンソーシアムは、日本郵便(株)近畿支社と、医学知識を基に地域の活性化と産業の振興を図るための包括的な連携・協力体制を構築するための連携協定を締結しました。同支社が大学と連携協定を締結するのは初めてで、近畿6府県で約3400局ある郵便局のネットワークを活かし、医師不足が深刻な課題となっている地域医療への貢献活動を行っています。

2024年11月18日、本学およびMBTコンソーシアムは、(株)モンベルと若者や高齢者の健康増進などを目的とした連携協定を締結しました。同社は2023年度グループ年商約1,250億円というアウトドア用品大手です。

2025年8月27日、本学およびMBTコンソーシアムは、(株)飛鳥FCと連携協定を締結しました。スポーツと医学の融合による地域健康づくりや人材育成を目指す飛鳥FCは2025年度から初の日本フットボールリーグ(JFL)で戦いに挑んでいます。同社の活動がMBTの目指す社会貢献活動と通じることもあり、JFL昇格を機に連携協定を締結し、今後活動を共にすることとなりました。



飛鳥FC (<https://asukafc.jp/>)

(2) MBTリンクの組織間連携

MBTリンク(株)はMBT研究所副所長の梅田智広研究教授が代表取締役社長を務めている奈良医大発ベンチャーです。同社は、MBT研究所の地域展開の中核組織としてこれまで、多くの自治体・組織と連携協定等を締結しております。最近の動きとしては以下のよう�습니다。

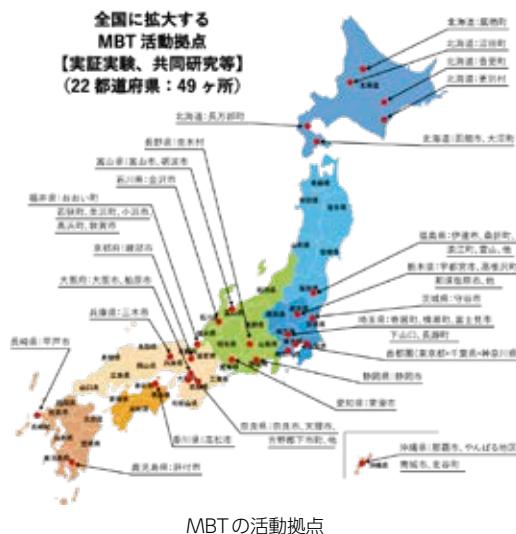
2025年1月29日、エネルギーの地産地消を実現する分散型エッジデータセンターを開発・運用するQuantum Mesh(株)と、AI・IoTの利用促進に向けて業務提携しました。低レイテンシー処理を可能にする国産デジタル基盤を活用することでAI・IoTの利用を促進し、医療を基礎とする地域に密着したまちづくりを実現することを目指すものです。

2025年6月29日、熊本県宇土市と連携協定を締結しました。電力データをもとにした生活リズムの把握や体調の異変の

早期察知を通じて、地域における見守り体制の強化と健康寿命の延伸を図り、宇土市が目指す「健康を基盤とした持続可能なまちづくり」の実現に貢献することを目指すものです。

2025年8月29日、那須赤十字病院(栃木県大田原市)および北関東総合警備保障(株)と独居高齢者の見守りやへき地医療を支えるための連携協定を締結しました。MBTリンク(株)が電力データから日々のライフスタイルをモニタリングし、変化が見られた場合、警備会社が自宅に駆けつけ、必要があれば病院に引き継ぐというサービスの確立を目指します。

MBTリンク(株)は、創立以来このような連携の形成に努めており、22都道府県、49ヶ所に活動拠点を形成しております。



2. 近鉄グループホールディングスがMBTコンソーシアム理事企業

近鉄グループホールディングス(株)がMBTコンソーシアムの理事企業になり、新たに北恭幸氏が理事に就任されました。これより、MBTコンソーシアムの理事会構成は10人体制になりました。

役職	所属	氏名
理事長	奈良県立医科大学	細井 裕司
理事	(株)健康都市デザイン研究所	井垣 貴子
理事	クオール(株)	柄澤 忍
理事	富士通Japan(株)	岸本 剛清
理事	関西電力(株)	中村 裕治
理事	近鉄グループホールディングス(株)	北 恭幸
理事	奈良県庁	中岡 正一
理事	橿原市役所	近澤 紀文
理事	奈良県立医科大学	木村 茂和
監事	(株)南都銀行	東 晋也

MBTコンソーシアム理事会構成

国際交流センターだより vol.21

ルール大学(協定校)との学生交流

本学の学術交流協定校であるドイツ・ルール大学に、今年4月、本学6年生を、実に10年ぶりに臨床実習へ派遣しました。さらに、2020年2月に来日した学生を最後に中断していた受入れも今年度より再開し、7月から8月にかけて同大学の学生が来日し、消化器外科・小児外科・乳腺外科および整形外科にて臨床実習を行いました。

Mouhammad Eyad Ahmad (6月30日～8月24日) Ruhr University Bochum

During my two-month clinical training at Nara Medical University Hospital, I had the opportunity to experience Japanese healthcare from a completely new perspective. I joined the departments of General Surgery and Hand Surgery, where I was warmly welcomed by the medical teams. The doctors were highly dedicated to teaching, often involving me in discussions, explaining procedures, and making sure I could follow the surgical cases. Their openness and kindness made it easy to learn, even across language barriers.

What impressed me most about Nara Medical University was the combination of professionalism and hospitality. The staff from both the university and the hospital and students were very supportive, and I also got to know some local students who kindly showed me around and helped me discover more about Japanese culture and daily life beyond the hospital.

Outside of the hospital, the location in Kashihara offered the chance to explore both traditional Japan and nearby vibrant cities like Osaka, Nara, and Kyoto. Overall, my stay at NMU was an unforgettable experience, academically enriching and personally inspiring.

医学科6年 山名 智尋(4月7日～5月2日)

ルール大学の麻酔科にて臨床実習させていただき、手術麻酔と集中治療を学びました。カンファレンスや患者さんとの会話などではドイツ語という言語の壁に直面しましたが、現地の学生が英語で説明してくれ、彼らの優しさに感謝すると同時に語学能力の高さに驚きました。現地の学生は医師の指示を受けることなく自分ですべきことを考えて行動し、またルート確保や採血といった手技にも熟練しており、積極的に学ぶ姿勢に刺激を受けました。友人に恵まれ、多くの学びを得て充実した1か月間でした。



Düsseldorf の日本庭園にて



実習先の病院前で

2025年4月～8月に本学附属病院にて実習を行った留学生を紹介します



Julius Böhme
チュービンゲン大学
ドイツ
3/10～5/2
脳神経外科・
心臓血管外科



Benita Raabe
ゲッティンゲン大学
ドイツ
3/10～5/2
血液内科・循環器内科



◀ Abdul Rahman Djalal
ゲッティンゲン大学
ドイツ 6/30～8/22
循環器内科・
呼吸器・アレルギー内科

Ethan Sheard
イーストアングリア大学
イギリス 7/14～8/8
心臓血管外科▶



Ondřej Burle Šimon Jeřábek
カレル大学 チェコ 3/24～4/18
総合診療科・整形外科

その他の受入れドクター&学生

氏名	国	講座・診療科	期間
Kanicnan Intui	タイ	法医学	4/7～6/20
Markéta Hašová	チェコ	総合診療科	4/7～4/15
Halawee Mayingo	タイ	麻酔科	4/16～4/30
Chaiyaphat Patrakulpong	タイ		3/3～4/24
Nantabhorn Akarawongsapat	タイ		7/14～8/13
Liu Guo-ping	中国		
Behsad Daber-Taleh (学生)	ドイツ	心臓血管外科	3/10～5/2
Julian Kuehne (学生)	ドイツ	消化器外科・小児外科・乳腺外科	5/19～7/11
Julia Grupa (学生)	ドイツ	消化器外科・小児外科・乳腺外科	5/5～6/27
Vanea Uyvico Lim	フィリピン		1/6～6/30
Werapat Ngowroongrueng (学生)	タイ		4/23～5/8
Chanon Malaikritsanachalee (学生)			
Po Han Su	台湾		5/5～7/25
Peter Kam To SIU	香港		5/19～5/27
Kao Shih Wen	台湾		6/15～6/29

キングス・カレッジ・ロンドン（イギリス）と学術交流協定を締結しました（2025年8月）

本学は2025年8月、英国の名門校キングス・カレッジ・ロンドンと、医学部学生の臨床実習に関する交流協定を結びました。この協定により、両大学の医学部に在籍する最終学年またはその前年度の学生が、4週間の臨床実習に参加できるようになります。年間で最大2名まで派遣・受入が可能です。今回の協定を通じて、両大学の交流が一層深まり、本学学生にとって貴重な国際経験の場となることが期待されます。



キングス・カレッジ・ロンドン (King's College London、略称 KCL) は、ロンドン大学連合の構成カレッジで、1829年に英国国教会によって設立されたイギリスで4番目に古い大学です。

ロンドンに5つのキャンパスを持つ英国屈指の総合国立大学で、学生数は3万名程度、ロンドン大学のカレッジの中で最大規模を誇ります。

イギリスのエリート大学群であるゴールデン・トライアングル（英国版アイビー・リーグ）の1校で、イギリスの名門研究大学連盟ラッセル・グループの加盟校でもあります。これまでに14名のノーベル賞受賞者を輩出しました。



フローレンス・ナイチンゲールが世界初の看護学校を設立したことでも有名で、その背景もあり医学系の学科、特に看護学や歯学の分野で非常に評価が高く、世界ランキングで常にトップ5に位置しています。

また、社会科学の分野においても影響力が強く、国際関係の分野では世界最高峰の大学の一つとして知られています。戦争学部を世界で唯一持つ大学であり、この学部は英国統合軍指揮幕僚課程の一部としても機能しているため、防衛・外交関係の研究機関として高い地位にあります。



令和7年度（第1回）若手研究者国際学会発表助成事業 助成者決定（7月14日）

令和7年度 第1回若手研究者国際学会発表助成事業の助成者は、右記の4名の方々に決定しました。

この事業は、若手研究者の国際学会等での発表の機会を増やし、国際的に活躍できる人材の育成を推進することにより本学における研究活動の一層の活性化を図るため、30万円を上限として往復運賃相当額及び宿泊費相当額を助成するものです。

年3回募集しておりますので、皆さまの積極的なご応募をお待ちしています。

所 属（科 目）	職 名	氏 名
糖尿病・内分泌内科学	医員	勝又 美穂
小児科学	医員	大砂 光正
血栓止血分子病態学	特任講師	下西 成人
脳神経外科学	大学院生	岡本 知也

安全保障輸出管理への取り組み vol.7

《安全保障輸出管理チェックシートについて》よくいただくご質問や一斉メールの内容で不足していた点があるため、下記にて補足いたします。

◆新様式（様式1-①）について

経済産業省が公表している様式が新しくなりましたので、今後は新様式で作成ください。

様式等は学内ホームページ▶国際交流センター▶安全保障 輸出管理に掲載しています。

◆筆頭著者・責任著者の氏名欄について

「論文投稿」、「英文校正」時は必ず記載してください。筆頭著者と責任者が異なる場合、それぞれ1枚ずつ提出が必要です。上記どちらも同じ場合は、同じ氏名もしくは同上と記載してください。

◆国内外の国際学会で発表する場合について

発表する場合、表面の「提供予定の技術の内容（概要）」に必ず演題名を記載してください。

医療DXを支える専門職としての医療情報技師の新たな展望

戦略的医療情報連携推進講座・教授／医療情報部・部長 玉本 哲郎

医療DX時代に求められる人材像

医療のデジタル化が加速するなかで、「医療DX（デジタルトランスフォーメーション）」は、単にITシステムを刷新する取り組みではなく、医療の提供体制や意思決定のあり方そのものを再構築する挑戦へと進化している。診療・看護・検査・薬剤・経営といった多職種がデータでつながり、情報を共有しながら医療の質を高める。この変革の要となるのが、医療と情報の両分野を理解し、現場とデータをつなぐ専門職である「医療情報技師」である。

医療情報技師は、システムの運用担当にとどまらず、現場のニーズを把握し、データを安全かつ効果的に活用するための設計者・調整者としての役割を担う。すなわち、医療情報技師は「現場起点のDX推進者」として、医療の持続的改善に寄与する専門職へと進化している。

医療情報技師の成り立ちと3Cの理念

医療情報技師制度は、2003年に日本医療情報学会を中心に創設された。当時、医療の情報化が進む一方で、医療従事者とシステム技術者の間には深い溝があり、現場の実情を理解した情報専門職が求められていた。2024年までの認定者数は、医療情報技師が28074名、上位資格である上級医療情報技師が588名である。医療情報技師は、医療・情報・管理の三領域を横断的に理解し、システムの安全運用、情報保護、業務改善を支えるための専門資格として位置づけられている。この職能を支えるのが「3C」と呼ばれる基本理念である。

- 1) Communication (コミュニケーション) : 他職種との円滑な意思疎通を図る力。医療現場と技術者、経営層をつなぐ。
- 2) Collaboration (コラボレーション) : 多様な専門職と協働して課題を解決する力。医療安全や効率化の実現に直結する。
- 3) Coordination (コーディネーション) : 部門間・職種間の調整を行い、組織としての最適解を導く力。

この3Cは、単なる技術知識ではなく、医療現場に根ざした「関係構築力」「課題解決力」を重視する理念である。DX推進が進む現代においても、医療情報技師に求められる本質はこの3Cに集約されている。

大学病院における医療情報技師の実践的役割

大学病院では、電子カルテを中心とした放射線、検査、薬剤、看護、経営などの部門システムが連携し、日々膨大なデータが生成されている。こうした複雑な情報基盤を安全・確実に運用することは、医療の継続性と信頼性を守る上で極めて重要である。

医療情報技師は、システム障害時の復旧対応やセキュリティ対策といった即応業務のみならず、データ標準化（HL7, FHIR, SS-MIX2など）の推進、診療支援データの可視化、業務プロセス改善にも貢献している。さらに、AI画像診断支援や臨床意思決定支援（CDSS）など新技術導入の現場では、臨床ニーズと情報倫理を両立させる調整役としての重要性が増している。

上級医療情報技師は、これらの取り組みを病院全体の視点から統括し、情報戦略やDX推進の方向性を策定する役割を担う。組織横断的なプロジェクトマネジメント、SLA（サービスレベル契約）の評価、法令遵守・リスクマネジメントの指導など、より高い次元で病院の情報環境を設計・運営している。

医療DX推進と人材の新しいかたち

医療DXの進展に伴い、医療情報技師の役割は、単なる「システム担当者」から「医療とデータをつなぐ戦略的人材」へと拡大している。AI医療機器、電子処方箋、PHR（Personal Health Record）など新技術の導入が進む中、医療情報技師は、現場の運用や法的枠組みを理解しつつ、テクノロジーの導入効果を最大化する責任を負う。

これから医療情報部門には、「データを守る」から「データを活かす」への発想転換が求められる。データはもはや副産物ではなく、臨床研究・教育・経営改善の基盤であり、その品質と信頼性を支えるのが医療情報技師である。上級医療情報技師を中心とした組織体制は、医療DXを単なるシステム改革ではなく、人材・文化・プロセスを変革する長期的な戦略として進める原動力となる。

本学における医療情報技師の育成と今後について

このように医療情報技師の果たす役割は大きい。本学には3名の上級医療情報技師が医療情報部に所属し、さらに医療情報技師も含めて10名以上所属している状況は、奈良県内の他の医療機関にはなく、人材が豊富である。また、2025年度は新たに3名の医療情報技師（医師1名、看護師2名）が誕生している。さらに、上級医療情報技師である池田和之薬剤部長は、現在、日本医療情報学会・医療情報技師育成部会の部会長であり、国内の医療情報技師の育成において中心的な役割を果たしている。このような恵まれた状況を活かして、大学病院における医療DXを推進する人材育成を図っていきたい。

闘病記文庫 開設18年目を迎えて

附属図書館(以下、当館)の闘病記文庫は、ある一人の医学科学生の要望がきっかけとなり、平成20(2008)年に開設されました。当館では、「闘病記文庫 棚作成ガイドライン」に準拠して闘病記文庫を並べています。闘病記文庫を常設している公共図書館もあるように、医学の専門家ではない市井の人々に対しても情報源として活用され、広く読まれている本が多いです。闘病記は「病いと向き合う過程を綴った手記」と定義されており、患者やそのご家族等の一人ひとりの体験談に触れることができます。これは医学専門書で学ぶことが難しいNBM(Narrative Based Medicine)の視点を研鑽でき、学生はもちろん、医療従事者の方々にも活用していただきたい、と紹介します。

所在

闘病記文庫は、図書館入口(畠傍山キャンパス講堂図書棟1F)を入ってすぐの本棚に並んでいます。



分類

当館の分類に採用している日本十進分類法とは異なる分類系統で管理しています。7つの大分類(総記、がん、小児がん、障害、脳、精神、疾病)のもとに、病名毎の小分類を設けています。闘病記は病名から本を探せるようにしてあり、本棚には病名の見出しがあります。

請求記号

請求記号は分類番号と著者名で構成されており、これは当館の他の資料と同じです。闘病記文庫は背ラベルに特徴があります。2段の背ラベルが貼ってあり、上段に分類番号、下段に著者名アルファベット3文字が記載されています。闘病記文庫の背ラベルは、資料種類ごとに色分けしています。

背ラベル色	資料種類
赤	闘病記
橙	介護記
紫	患者会資料
水色	行政・社会福祉資料等
灰	患者等の心情を理解する一助になる資料



本の装備

当館では、闘病記文庫の本の帯を遊び紙(表紙と本文の間に挿入する無地の紙)に貼っています。帯には簡単な要約、著者のコメント、著名人による推薦分や映画になった宣伝文等が書かれており、内容を知るための情報源のひとつになるからです。目に留まった闘病記文庫は表紙を開き、帯にも注目してください。



畠傍山キャンパス移転でリニューアルした点

以前から、大分類“疾病”的並び順には工夫の余地がありました。並び順は小分類の五十音順でしたが、例えば追加した病名を途中に差し込むとなると、後の小分類の番号が繰り下がる難点を抱えていました。そのため、追加した病名は闘病記文庫開設当初に付与した最後の番号に続ける方針を取っていました。これを改善すべく、小分類を専門領域ごとのグループとし、五十音順の制限を解いた並び順に変更しました。この並び順は日本十進分類法や米国国立医学図書館分類法等を参考とした当館独自の分類です。

さらに、病名分類がなく何の病名がテーマであるか分からぬ本も経年経過で増えています。これらは内容を確認し病名分類を追加しました。

参考文献

- (1) 川村殉子. 奈良県立医科大学附属図書館における闘病記文庫の設置. 医学図書館. 2009. 56 (2) . 127-130.
<http://ginmu.naramed-u.ac.jp/dspace/handle/10564/940>
- (2) 鈴木孝明. 開設後3年経過した闘病記文庫の現状と課題. 薬学図書館. 2011. 56 (3) . 245-248.
<http://ginmu.naramed-u.ac.jp/dspace/handle/10564/1870>
- (3) 健康情報棚プロジェクト著. 闘病記文庫 棚作成ガイドライン. 2006.

未来への飛躍基金だより

未来への飛躍基金へのご支援をお願いします

本学では、未来の奈良県の医療を担う医学科・看護学科学生への教育・研究の充実や修学環境の整備等を推進するため、また、畝傍山キャンパスの施設整備等に対応するため、未来への飛躍基金へのご寄附を広く募っております。皆様には従前より未来への飛躍基金へのご支援をいただいているところですが、基金設置の趣旨をご理解とご賛同をいただき、更なるお力添えを賜りますよう、引き続きご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

01 國際性豊かな人材の育成

- * 学生の海外派遣実習・研修への助成
- * 研究者の海外留学への助成 等

02 施設・設備の機能充実

- * 大学の設備充実
- * 研究用備品の整備 等

03 高度な研究や医療の提供体制の整備

- * 臨床研究の推進
- * オートファジー・抗老化センターへの支援

04 基礎研究医の育成

- * 基礎研究医養成大学院修学資金

05 クラブ活動への助成

- * 畝傍山キャンパス物品倉庫 等



未来への飛躍基金への感謝 * 海外臨床実習 (2024年度活動報告より)

未来への飛躍基金では、医学科海外臨床実習での宿泊費、交通費、実習費等の一部を助成しています。City St George's, University of London に留学したお二人の活動報告をご紹介します。皆様からのご支援に心から感謝申し上げます。



City St George's, University of London へ臨床実習留学をしました

(当時) 医学科5年生 尾川 裕太

250年以上の歴史を誇り、世界初のワクチンを開発したエドワード・ジェンナーの母校としても知られる St George's University of London の附属病院で呼吸器内科の実習を行いました。回診や外来、気管支鏡検査、カンファレンスなどを通じて幅広く学びました。多様な文化背景を持つ患者と接し、「人」を診る医療の重要性を実感しました。学生が主体的に患者と関わる姿勢も印象的でした。COPD の世界的権威の教授との対話は視野を広げる刺激となり、将来的に海外で医師として働くことも視野に入れるようになりました。

生活面でも、緑豊かな公園や落ち着いた街並みに加え、サッカーや音楽などの文化的に豊かな環境も魅力的でした。未来への飛躍基金のご支援に心より感謝申し上げます。



COPD の世界的権威の Jones 教授と

(当時) 医学科5年生 宮崎 奈桜

このたびは、海外臨床留学にあたり多大なるご支援をいただき、誠にありがとうございました。ご支援のおかげでイギリスにて1か月間の実習を経験させていただき、非常に充実した時間を過ごすことができました。

現地では、医療に関する学びだけでなく、日本とは異なる医療システムや、多文化社会ならではの価値観や背景に触ることができ、とても新鮮で刺激的でした。また、世界中から集まった留学生たちと交流し、互いに学び合う中で、多くの気づきや視野の広がりを得ることができました。今回の経験を通して、今後の医師としてのあり方を考えるきっかけになりました。この貴重な機会に心より感謝申し上げます。この経験を活かしこれからも努力を重ねてまいります。



留学生仲間と

【奈良県立医科大学 総務広報課 未来への飛躍基金】

TEL : 0744-22-3051 (内線 2803) E-mail : hiyakukikin@naramed-u.ac.jp

【未来への飛躍基金 HP】 <https://hiyakukikin.naramed-u.ac.jp> または「未来への飛躍基金」で検索！



看護部の紹介

チェンマイ大学病院看護師研修

看護実践・キャリア支援センター 看護師長 吉川 紀子

本学とタイのチェンマイ大学病院との学術交流協定による交換研修で、7月7日～18日の2週間、チェンマイ大学病院から2名の看護師が来日しました。看護実践・キャリア支援センターでは、研修生の専門性に沿う形でNICU、ICUでの研修、高度救命救急センター、入退院支援センター等での研修、さらに院外の訪問看護ステーションの協力を得て研修を企画しました。その結果、研修生2名の研修への熱心な態度、お互いの組織体制や看護実践など具体的な情報交換によって、言葉の壁を越えて看護実践の魅力を広げる機会となりました。

今回の学術交流研修に際し、ご協力いただきました皆様方には深く感謝いたします。来年度はチェンマイ大学病院への研修派遣となります。ご興味のある方は参加をご検討ください。



令和7年度 奈良県看護功労者知事表彰 受賞

C病棟5階 看護師長 渡邊 敬子
C病棟7階 看護師長 永野 由美子
D病棟 看護主任 曲川 由衣子

このたび、5月11日に「令和7年度奈良県看護功労者知事表彰」を受賞いたしました。私たち3名は、奈良県立医科大学附属看護専門学校第31回生として学び、昭和63年に奈良県立医科大学附属病院へ就職いたしました。配属先はそれぞれ異なりましたが、互いに励みとし、支え合いながら歩んでまいりました。振り返りますと、37年間の看護師としての歩みは、変化を続ける医療現場で数々の困難を乗り越えてきた年月でもあります。その中で看護の本質を見失わず、やりがいを持って勤務を続けられたのは、上司・先輩方をはじめ、同僚、友人、そして家族の支えによるものであり、心より感謝申し上げます。

今後も看護の道に誠実に向き合い、地域医療の発展に尽力してまいります。



先端医学研究支援機構だより

研究力向上支援センターからのお知らせ

令和7年度科研費獲得セミナーを開催しました

令和7年度科学研究費助成事業に係る科研費獲得セミナーを3回にわたり開催しました。

第1回は2025年6月23日(月)にジーラント株式会社・久留米大学客員教授の児島将康先生によるオンラインセミナーを開催しました。児島先生は科研費獲得に関する書籍を多数出版されており、講演されるセミナーは人気で、本学でも2017年にご講演いただき大変盛況でした。今回は「科研費の採択を目指して：科研費初心者のための申請書の書き方講座」と題してご講演いただきました。初心者にもわかるよう「科研費とは何か」から説明いただき、科研費の審査委員としての経験も踏まえて、申請書に何をどの様に書くことが求められるのかを、丁寧にわかりやすく解説いただきました。

第2回は2025年7月9日(水)に、主に看護学科研究向けとして畠傍山キャンパスでの初開催となりました。講師は公衆衛生看護学教授 坂東春美先生に「科研費獲得のすゝめ」と題して、福沢諭吉の「学問のすゝめ」になぞらえて「科研費獲得へ向けてどう取り組むべきか」を申請書に記載すべき事項と対比しながら研究への取り組み姿勢も含めてご講演いただきました。

第3回は2025年7月14日(月)に、第二生理学講師 坂野公彦先生に「科研費申請～私の留意点～」と題して、放射線診断・IVR学教授 田中利洋先生に「チャレンジしてよかったです基盤研究BJ」と題してご講演いただきました。先生方からはこれまでに獲得された科研費のご自身の経験に基づいた科研費申請書作成のひと工夫や、研究計画の立て方、考え方などにも触れていただき、具体的な事例を示しながら貴重なお話をいただきました。また、研究力向上支援センター URA 上村陽一郎特命教授、URA 富樫英特命講師より「令和7年度科学研究費助成事業への応募について」と題して、科研費についての全般的説明と注意事項の説明をさせていただきました。会場やオンライン参加を含めて多数のご参加をいただきました。今後も科研費獲得へ向けての様々な支援活動を行っていきますので、ご希望がございましたら是非ご一報ください。



ジーラント株式会社・久留米大学客員教授 児島将康先生



公衆衛生看護学教授 坂東春美先生



第二生理学講師 坂野公彦先生



放射線診断・IVR学教授 田中利洋先生

若きトップサイエンティストの挑戦(リサーチストーリー)vol.16、vol.17を掲載しています (本学ホームページ) > 研究力向上支援センター > 若きトップサイエンティスト

当シリーズでは本学で国際的に活躍されている若手の研究者の方々にお話を伺い、学内を始め広く学外にも紹介しています。Vol.16、17では本年4月より日本学術振興会 特別研究員-PD、RPDとして採用されたお二人の先生を紹介しています。Vol.16では化学 特別研究員(RPD) 久禮智子先生、Vol.17では第二生理学 特別研究員(PD) 小野寺悠先生にインタビューを行いました。先生方のこれまでの研究活動や、研究を進めてこられた動機、プロセス、今後の抱負などについてお話を伺いました。

これらの内容は、研究力向上支援センターのホームページに掲載しておりますので是非ご覧ください。



化学 特別研究員 (RPD)
久禮智子先生



第二生理学 特別研究員 (PD)
小野寺悠先生

研究力向上支援センターでは、この他様々な情報を発信しております。今後もメルマガ「研究力向上支援センターニュース」や研究力向上支援センターの学内ホームページで紹介をしていきますのでご期待ください。記事ホームページは下記の二次元バーコードからご覧いただけます。

若きトップサイエンティストの挑戦(リサーチストーリー)

URL: <https://www.naramed-u.ac.jp/university/kanrenshisetsu/crcd/interviewwakakitopbox.html>



医学研究支援センターからのお知らせ

カルタヘナ法を守って 成果生む

～安全な組換えDNA実験実施に向けての奈良医大の取り組み～

現在の医学・生命科学研究において組換えDNA技術は不可欠です。組換えDNA技術を用いた研究を行うにあたっては、カルタヘナ法(正式名称:遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律)や、学内規程を遵守する必要があります。

本学・組換えDNA実験施設では、組換えDNA技術やカルタヘナ法、学内規程への理解を深めていただくことを目的とし、学内外に情報を公開しています(図参照)。

さらに、本学にて組換えDNA実験に従事する教職員・学生等を対象とした教育訓練も開催しています。ほぼ毎月開催していますので、受講希望者は、医学研究支援センターまで、遠慮なくお問い合わせください。

奈良県立医科大学
組換えDNA実験施設 Webサイト

学外向け

学内限定



申請書様式ダウンロード可

キーエンス顕微鏡にタイムラプス装置が導入されました

RI実験施設(総合研究棟5階)からのお知らせです。管理区域内のRI測定室に設置されている「キーエンス蛍光顕微鏡BZ-X700」については、多くの方々にお使いいただいているが、以下の点が改良されました。



1. **光源**:これまで「メタルハライドランプ」が使われていましたが、2025年9月1日より「LED光源」に変わりました。これにより、蛍光強度の劣化が起こりにくくなり、撮像条件を安定に保つことができます。
2. **100倍油浸レンズ**:これまで対物レンズは、1.25倍、4倍、10倍、20倍、40倍でしたが、今回「100倍油浸レンズ」が納品されました。レンズにオイルを滴下して使用します。不慣れな方は担当者がお教えしますので、使用方法を習得した上でお使いください。適切なオイルの滴下と清掃が行われないと不具合の原因になりますので、ご注意ください。
3. **タイムラプスシステム**:本装置にて「タイムラプス撮影」が可能となりました。35 mm培養ディッシュ、または各種ウェルプレートで生細胞のタイムラプス撮影が可能です。使用方法を十分に習得してお使いください。はじめて使用したい方、使用時間が長くなる方は、あらかじめRI管理室(内線2650)、または菫子野(kashino@naramed-u.ac.jp)へご相談ください。

動物実験における安全管理

本学動物実験施設では、動物実験実施者の動物実験時における安全・衛生管理を徹底して行なっています。動物実験には、次のような注意すべき事項が含まれています。

①実験動物による咬傷、②針刺し事故、③実験動物の逸走、④実験動物に由来する病原体の感染、⑤動物飼育管理中における粉塵の曝露

これら注意すべき事項の対策として、動物実験施設利用者には、「無塵衣」、「ヘアキャップ」、「マスク」、「手袋」等を適切に着用し、消毒を行なった上で、動物飼育区域内へ入室することを義務としています。

また、動物飼育区域は、微生物学的レベル(SPF区域、コンベンショナル区域、感染実験区域)に応じて区域が分かれており、実験動物への感染事故防止に努めています。

これらのことから、動物実験施設内にて動物実験を実施する際には、事前準備(計画の立案、充分なトレーニング、等)を充分に行い、前述の事故防止に繋がることを、日頃から利用者には意識していただければと思っております。ご協力のほど、宜しくお願い申し上げます。

動物実験施設の受託業務の紹介

本学動物実験施設では、利用者が保有する実験動物(マウス)の効率的な維持管理を目的として、2025年度よりマウスの生殖細胞(精子、受精卵)の凍結保存業務を開始致しました。これまでマウス系統を生体で維持管理されてきた利用者には是非とも活用していただき、日常の実験動物(マウス)の維持管理の効率化に役立てていただければと思います。詳細等については、動物実験施設へ問い合わせください。

働き方改革だより

産婦人科における業務見直しミーティング報告～外部有識者を交えた職種間の業務見直しの取組～

本学では、医療の質・安全を確保し、医療従事者の働き方改革を推進するため、産科部門・婦人科部門の関係職種合同の業務見直しミーティングを実施しました。今回、外部コンサルタントを交えてミーティングを進行する取り組みは、院内で初めての試みとなります。この新たなアプローチにより、客観的な視点も取り入れた改革の実現を目指しました。本報告では、2025年3月27日に実施された「婦人科部門ミーティング」および同年8月29日に実施された「産科部門ミーティング」の内容をもとに、各部門の具体的な改善事例についてご紹介します。

外部コンサルタントによるミーティングの概要

今回の業務見直しミーティングは、外部コンサルタントによるファシリテーションのもとで実施されました。DRASTIC 視点(右図参照)が提示され、慣習的に行っている業務を根本的に見直す機会としました。

医師、看護師、助産師、医療事務作業補助者など多職種が一堂に会し、これまで院内だけでは見落とされがちだった課題も含め、現状を分析し、改善施策や実施するうえでの問題点を検討しました。事前にコンサルタントから提供された分析表に医師・看護職員が記載し、当日はその内容に基づきミーティングが行われました。

D	Discontinue	思い切ってやめられないか
R	Reverse	発想の転換はできないか
A	Assign	割り当てを見直せないか
S	Substitute	代用はできないのか
T	Turn	手順の変更、見直しはできないのか
I	Into Pieces	分散処理はできないのか
C	Concentrate	集中処理できないのか

業務見直しの視点 (DRASTIC)

婦人科部門における主な改善ポイント

- 術後創部回診について、従来は複数の職種それぞれで行っていたが、「異常のある患者のみ詳細確認・記録」「共通手順書の作成と周知」を進め、患者・スタッフ双方の負担軽減
- 慣習的に継続していた術後消毒についても、他科との比較検証を経て「必要性の再評価」「ルール明確化」を実施
- 申し送りや情報共有は、「紙媒体からの電子化」「必要最小限の口頭申し送り」へと移行

産科部門における主な改善ポイント

- ABR(聴性脳幹反応)結果説明の役割分担を明確化(異常のない場合は助産師、異常時の医師が説明)
- 退院指導では、標準的な説明を助産師が、特記事項の説明を医師が担当し、重複作業を削減
- 退院時の健診・診察予約を助産師が一括で対応する体制を導入
- 退院診察や分娩誘発時の対応などの時間帯をスケジュール化し、スムーズな現場運用に変更

今後の展望

コンサルタントからは「多職種が協力し、組織的に合意形成できている点でミーティングの場を設けることは有効である」と評価がありました。また、参加者からも「日常業務の中で話題にすることはあるが、業務から離れて関係者が一堂に会することでルールとして定めることができた。徹底できるよう周知したい。」と前向きなコメントもありました。

今回、第三者である外部コンサルタントを交えて、職種合同で業務見直しミーティングを実施したことは、初めての取り組みでしたが、院内の関係者のみならず、コンサルタントの客観的な視点も取り入れることで業務の最適化を進め、医療従事者の働き方改革や患者サービス向上への一歩となりました。今後も、今回得られた気づきと成果をもとに、他診療科においても継続的な改善と検証を重ね、持続可能な医療提供体制を目指していきます。



関係職種合同の業務見直しミーティングの様子

6.28 第248回日本内科学会 近畿地方会医学生セッションで発表しました

医学科6年 岡田 直子

本年6月28日に開催された第248回日本内科学会近畿地方会の医学生セッションにて、「冠動脈瘤に対してカバードステントを用いて治療した一例」という演題について発表させていただきました。本発表は、5年次の循環器内科での4週間の選択型臨床実習中に経験したもので、ガイドラインに治療法の記載がない疾患である冠動脈瘤に対し、過去の報告に基づいてステント治療を行った一例です。初めての学会発表で分からぬことばかりでしたが、有意義な実習の機会をいただき、発表準備に至るまで熱心にご指導くださった彦惣俊吾教授、上田友哉先生をはじめとする循環器内科学教室の先生方に、心より御礼申し上げます。



医学科6年生 上村 愛

6月28日に開催された第248回日本内科学会近畿地方会の医学生セッションにて、「下肢動脈の側副血行路である左内胸動脈において、バルーンカテーテルを用いた虚血評価が有用であった1例」という演題で発表させていただきました。事前に下肢の側副血行路となっていた内胸動脈を閉塞した状態での下肢の虚血を評価することで、冠動脈バイパス術後も下肢の虚血状態の増悪を認めなかつた症例について報告いたしました。今回このような貴重な機会を設けてくださいました彦惣俊吾教授、また上田友哉先生を始め、お忙しい中、終始熱心に指導してくださいました循環器内科学教室の先生方には深く感謝申し上げます。



7.7

MBT特命教員による学生への特別講義

本学では、MBTの目標である産業と医学を結びつけ、イノベーションを起こす実力又は実績があると認められる方にMBT特命教員の称号を授与しています。現在、6名の方々にMBT特命教員に就任いただいており、ご自身の豊富な人生経験をもとに毎年1回本学の学生に、幅広い視野を持つ人間に育成されるよう講義をしていただいている。

7月7日にMBT特命教員のお一人である梅華会理事長の梅岡比俊MBT特命准教授が医学科1年生に講義を行いました。

講義では自身の起業に至るまでの歩みを紹介し、温暖化や心の病など幅広い課題を題材に、医療のみならず多角的な視点で社会に貢献する姿勢を語られました。本学の細井裕司理事長からは「人口減少時代を生き抜くため挑戦を学んでほしい」との言葉が贈られ、学生との活発な質疑も交わされました。



細井裕司理事長 梅岡MBT特命准教授



講義の様子

7.18

UP DATE EARTHイノベーションスクールを開催しました

デロイトトーマツグループが推進する「UPDATE EARTHプロジェクト」の一環として、起業家教育プログラム「INNOVATION PROGRAM」を開催しました。本プログラムは、学生から社会人まで幅広い層に起業家教育を提供し、全国規模でビジネスアイデアを発掘・支援することを目的に展開されています。今回は、デロイトトーマツグループの中島仁氏を講師に迎え、ユニコーン企業が世界経済を牽引する現状や、日本が大きく遅れをとっている実態について解説がなされました。約30名の学生・教職員が参加し、熱心にメモを取りながら聞き入っていました。細井裕司理事長からは、医療研究者や学生に向けてアントレプレナーシップの重要性が説かれました。JSTのKSAC-GAPファンド事業でも採択事例が出るなど、本学でもスタートアップへの機運が高まっています。今後も地域から世界へと羽ばたく起業家の育成に寄与することが期待されます。



細井裕司理事長 中島仁氏



講演の様子

6.10~6.16
7.28~8.3

万博に出展しました

本学とMBTコンソーシアムは、2025年大阪・関西万博において、6月10日～16日、9月30日に大阪ヘルスケアパビリオン、7月28日～8月3日に関西パビリオン京都ブースへ出展し、本学が推進するMBT(Medicine-Based Town)構想を広く発信しました。6月10日～16日の大阪ヘルスケアパビリオンでは、大阪市内の企業2社と連携し未来のライフスタイルを体験できるデモを行いました。京都ブースでは、未来の健康見守りや産業創生の姿を動画で紹介するとともに、手指機能強化手袋や柿渋のど飴、銅合金蒸着マスクといった研究成果を活用した製品を展示し、来場者に実際に手に取って体験していただきました。初めて「MBT」に触れる一般の方々からも大きな関心と共感を得る機会となりました。続く9月30日には、大阪ヘルスケアパビリオンのリボーンステージにて、細井裕司理事長が「未来の健康長寿社会に挑む奈良県立医科大学のMBT活動」と題して講演し、梅田智広研究教授が電力データとAIを用いた健康見守りの取組みを紹介しました。また、NHKをはじめとするメディア取材も受けました。

これらの活動を通じて、本学とMBTコンソーシアムの挑戦が、未来の健康長寿社会の実現に向けて着実に広がりを見せています。



万博出展の様子

7.31

葛城市 未来人材育成事業 共催「めざせ未来のドクター！奈良県立医科大学医師体験ツアー」を実施しました

7月31日に葛市の未来人材育成事業の一環で本学の教育開発センター(スキルラボ)と共に「めざせ未来のドクター！奈良県立医科大学医師体験ツアー」が実施されました。本ツアーは昨年度より教育開発センターで運営している、シミュレーション型児童医療体験企画「ホスピタルラボ」を主軸としたもので、午前中には畠傍山キャンパスの案内とオリエンテーションを行い、午後に葛城市の子どもたち(総勢40名とその保護者方)がホスピタルラボで医師体験を行いました。

畠傍山キャンパス案内では、開会式(写真)の後、図書館探訪、化学研究室協力のもとに酒井宏水教授の講義、化学研究室の先生方による実験室紹介が行われました。また午後のホスピタルラボでは、診断ゲーム(心音聴取・呼吸音聴取・服薬選択)、手術ゲーム(腹腔鏡手術)、検査ゲーム(採血)など全8種のゲームに挑戦していただきました。医師体験の後の閉会式では、ゲームの得点によって表彰が行われ、「しようとした医師くんグッズ」など奈良県立医科大学に関わるグッズがプレゼントされました。

参加した子どもたちは、「お医者さんの仕事がとてもよく分かった」「とても楽しかった、また参加したい」「お医者さんになりたい・奈良医大に入学したい」といった感想が寄せられ、保護者からも「付き添ってくださった先生方がみんな優しくて丁寧だった」「参加して本当に良かった」「来年も実施してほしい」といった感想をいただきました。こうした感想は昨年度のホスピタルラボでも同様でしたが、今年度も多くの保護者から好意的な評価をいただき、非常に満足いただけたことにセンターの職員一同大変光栄に感じております。

本事業にご協力いただいた同窓会・教育支援課・臨床研修センター・NLSCの皆様に感謝するとともに、これからも継続的な本事業の開催を行ってまいります。

8.2

看護学科オープンキャンパス2025を開催しました

8月2日に看護学科オープンキャンパスを来学型で開催しました。はじめに嶋医学部長から大学の概要を説明していただき、続いて川上看護学科長の講演、五十嵐看護教育部長から学科紹介及び入試概要についてご説明いただきました。待ち時間には学生が作成したインタビュー動画、今年度制作した看護学科の紹介動画を流しました。

実習研究棟内では実習施設見学を実施しました。講義棟の医看合同講義室では模擬ミニ講義、本学学生が大学の紹介を行いました。今年の模擬ミニ講義は、実践基礎看護学の升田教授から「看護援助におけるコミュニケーション技術」をテーマに講義いただきました。その他講義棟では教員・在学生との相談コーナーを実施しました。参加者からは、「実際に学校に行ってみて施設が整っていることや新キャンパスが広くて綺麗でより行きたくなりました。」や「実習体験では、実際に実習で使われているものを触らせてもらったり、話を聞くことができたので楽しかったです。」などの感想が寄せられました。



在学生による大学紹介



ホスピタルラボの様子



オリエンテーションの様子

8.18
~
8.21

令和7年度コンソーシアム実習(奈良医大・早大連携講座)を開催しました

本実習は早稲田大学との連携講座として平成22年度から隔年で実施されており、今年度は早稲田大学から19名、本学から31名の学生が参加しました。初日は嶋医学部長の開講式に続き、長谷川先生による「医療経営」の講義と懇親会を開催。懇親会では城戸先生によるアイスブレイクが行われ、心理学的アプローチ型自己紹介で学生同士が打ち解け、実習の雰囲気が和らぎました。2日目・3日目には「医療経済」(野口先生)、「高齢社会とICT」(岩崎先生)の講義を通じて、医療と社会の関係について多角的に学びました。また、奈良県の地域医療については、吉本先生による「附属病院の視点から」、佐伯先生による「疫学・予防医学」、周藤先生による「行政の視点から」の講義があり、地域医療を多面的に理解する貴重な機会となりました。今年度は初の試みとして「今井町散策」を実施し、地元文化への理解を深めました。最終日は南奈良総合医療センターを訪問し、地域医療の現場を見学。午後にはワークショップを行い、教育開発センター若月先生、南奈良総合医療センター明石先生、早稲田大学大島先生の指導の下、患者シナリオに基づく医療提案を検討・発表し、異なる専門性を持つ学生が協働して医療提案を発表しました。参加学生からは「医療を学ぶ貴重な機会だった」「異なる視点から医療を考えられた」との声が寄せられました。ご協力いただいた先生方・関係者の皆様に心より感謝申し上げます。



実習初日：懇親会

9.6

MBT 難病支援 WEB セミナーを開催しました

第9回 MBT 難病克服支援 WEB セミナーを開催し、ALS(筋萎縮性側索硬化症)をテーマに講演が行われました。ALSは進行性の神経難病で、発症から数年で死に至ることもある厳しい病ですが、人工呼吸器や視線入力装置の発達により生活の質が改善し、新薬開発も進むなど希望が広がりつつあります。今回は、ALS研究の第一人者である滋賀医科大学の漆谷真教授が、病態や治療の最新動向、今後の展望について講演しました。また、テレビ朝日「報道ステーション」で医療番組を手掛け、ALS患者のドキュメンタリー映画『NO LIMIT, YOUR LIFE』を制作した毛利哲也監督が、映像を通じて難病の現実を社会に伝える重要性を語りました。進行役の杉江和馬教授(本学脳神経内科学)からは、全国および奈良県における指定難病の実態や、厚労省が新たに7疾患を追加し計348疾患となったことも紹介されました。本学細井裕司理事長は、2021年に始めた難病克服キャンペーンが、患者や家族の苦境を社会に広く理解してもらう取り組みとして意義を深めていると述べました。本セミナーは、研究と社会的理の両輪で難病克服をめざす場となりました。



(左上) 杉江和馬教授 (右上) 細井裕司理事長
(左下) 漆谷真教授 (右下) 毛利哲也監督

8.23

医療モビリティ博に出展しました

8月23・24日、愛知県長久手市の愛・地球博記念公園にて「医療モビリティ博2025」が開催され、全国の企業・大学・研究機関30団体以上が参加しました。会場には約30台の医療・防災車両、最新ドローンやAI・ICT技術が集結し、未来の医療と防災の姿を体感できる国内初の大規模博覧会となりました。愛知県古瀬陽子副知事や国会議員、自治体関係者も来場し、医療アクセスや災害時対応への関心の高さがうかがわれました。MBTは、(株)M-aid、(株)タカゾノ、奈良先端科学技術大学院大学(NAIST)と連携して出展。大災害時に想定される通信障害や医療孤立に対し、通信衛星で回線を復旧しオンライン診療を行い、処方箋に基づく医薬品を迅速に提供する実証展示を実施しました。本取り組みは、医療とモビリティ、ICTの融合により「医療アクセスの新しい形」を提示するものであり、地域と社会に貢献するMBTの使命を広く発信する機会となりました。



医療モビリティ博

9.8
～
9.12

医学科看護学科合同科目「次世代医療人育成論」を開講しました

9月8日～12日に次世代医療人育成論を開講しました。本科目は、医学科1年生と看護学科1年生を対象とした医看合同科目であり、良き医療人育成プログラムの一つに位置づけられています。

1年次から医師や看護師により深く求められる教養「プロフェッショナリズム」を認識することを目的に、「知的生産技術」、「コミュニケーション」及び「人権教育」の3つをテーマに授業を実施しました。「知的生産技術」では、特にチーム医療を担う医療人として求められる批判的思考力(クリティカル・シンキング)について、演習を通じて、体験的にその重要性や必要性を自ら気づく授業を行いました。次に、「コミュニケーション」では、医療人として必要な他者との協働関係を結ぶためのコミュニケーション力を、理論から実践方法まで段階的に学べるように授業を配置し、実践的な授業を行いました。また、医療者・患者コミュニケーションの技法として動機付け面接(患者が真に求めていることを引き出す会話術)を学び、ペアワークで実践を行いました。「人権教育」では、4つのテーマ(奈良県の男女共同参画、LGBTQ+、共生社会、発展途上国とのジェンダー・人権)で講演いただき、差別や人権侵害を無くし、共に生きる社会人を実現する態度を学びました。

最終日には、4日間の授業を通じて得たことを「コミュニケーション能力」と「共生社会」の2つのテーマでグループワークを行い、その成果を発表しました。発表会では、学生が司会を務め、発表班の紹介や質疑応答を実施し、活発な発表会となりました。発表会後は、各班が投票を行い、最優秀班に表彰を行いました。5日間の授業を終えた学生の感想には、「医療者に必要なコミュニケーションについて、実際に体験しながら学ぶことができた」、「今回学んだコミュニケーション技法を、家族や友人との会話でも意識していきたいと思った」、「様々な講師の方や学生からの話を聞き、自分の考え方を改める良い機会であった」、「学科を問わず普段話したことのない人とコミュニケーションをとることができた」等があり、医師・看護師を目指す学生にとって、有意義な時間となりました。



発表会の最優秀班

9.13

同志社女子大学と合同講演会を開催しました

9月13日に本学と同志社女子大学の共催による合同講演会を奈良県コンベンションセンター天平ホールにおいて開催しました。

当講演会は同志社女子大学と本学が毎年交互に開催しているもので、今回は「賢く医療とつきあう方法」をテーマに、同志社女子大学薬学部教授 喜里山 晓子先生より「薬の秘密～理解して、よりよく効果を得よう!!～」と題して、本学附属病院副院長、医療の質・安全管理センター長 辰巳 満俊先生より「あなたも医療チームの一員!～医療を“安心”にする患者の関わり方～」と題して、それぞれ講演いただきました。講演では、薬との向き合い方や、医療者との信頼関係の重要性についてわかりやすく説明をいただき、多くの気づきと学びを得る機会となりました。会場には、県内外から多数の方に参加いただき、テーマに関する関心の高さを伺うことができました。



会場の様子



芝田薬学部長(同志社女子大学)による開会の挨拶

講演を行う喜里山教授

講演を行う辰巳副院長

嶋副学長による閉会の挨拶



学生による献花

9.18

第78回解剖慰靈祭を執り行いました

9月18日、グランドメルキュール奈良橿原において、第78回解剖慰靈祭を執り行いました。

今年は新たに、系統解剖42柱、病理解剖28柱の計70柱の御靈を加えて、6,977柱の御靈をお祀りさせていただきました。黙祷の後、学長の祭文奉読、医学科2年生総代の片山俊さんの感謝文奉読、参列者の献花と続き、最後に学長からのお礼の挨拶により終了しました。

医学の発展と医学教育のために自らの御体を捧げてくださった方々の崇高なるご遺志に改めて深い感謝の意を表しますとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

9.10 NARA医工連携イニシオを開催しました

本学と奈良先端大が共同で設立した一般社団法人奈良先端医工科学連携機構による「NARA医工連携イニシオ」の第1回が、9月10日に厳檜会館で開催されました。本事業は両大学の研究連携を深化させることを目的としたリレー形式の定期セミナーで、オンラインでも配信され、学内外から多数の参加がありました。

今回は本学脳神経内科学講座の杉江和馬教授が「脳神経筋疾患における病態解明とオートファジー研究」と題して講演を行いました。杉江教授は、脳神経内科学教室で行われているパーキンソン病の歩行障害・睡眠異常にに関する研究成果や筋萎縮性側索硬化症(ALS)における液-液相分離異常の分子機序に関する研究などを紹介されました。また、自身が研究を推進している希少疾患であるダノン病におけるオートファジー異常と遺伝子治療の最新動向についても解説され、基礎研究と臨床応用をつなぐ医工連携の重要性を強調しました。本セミナーは「Inicio(始まり)」の名のとおり、今後の両大学の共同研究推進に大きな一步を刻むものとなりました。次回以降も先端的な研究成果が共有される予定であり、継続的な参加が期待されます。



講演を行う杉江教授

9.25 実験動物慰靈祭を執り行いました

実験動物の尊い生命に対し哀悼の意を表すため、実験動物慰靈祭を執り行いました。今年度もたくさんの研究者に参列していただきました。

私たち医学に携わる者は、人間はもちろん動物の生命も尊重しなければなりません。代替的手段がなく、やむをえず動物実験を行うときは、動物愛護の観点から、動物への苦痛を軽減し、さらに犠牲になる動物数の削減に努めることが必要です。そして、動物の生命から得られた貴重な情報を研究成果として広く社会に還元していくことが私たちの責務です。



慰靈祭の様子

9.28 奈良健康フェア2025を開催しました

9月28日にイオンモール橿原の1階サンシャインコートにて奈良健康フェア2025を開催しました。医学科・看護学科の学生を中心に看護体験ブース、聴診・臓器エプロンブース、心臓マッサージ・AED体験ブース、ぬいぐるみ病院などを実施し、こどもたちに医療の体験をしていただきました。ステージ企画として奈良県広域消防組合の皆さんによる「タスケルンジャー ショー」(心臓マッサージ・AEDの普及活動を目的としたパフォーマンス)で会場に集まった大勢の観客を盛り上げていただきました。また、タスケルンジャー・ブラックジョーカー軍団との記念撮影なども実施いただきました

医師・看護師など多職種による企画も実施しました。整形外科と理学療法士のチームによるロコモブースでは、骨健康度測定器での診断の他、「こどもロコモ」評価をミニサイズの踏み台で体験いただきました。救急科のチームでは、仮想現実の現場(患者役が目の前で倒れて、119番通報し、実際の奈良県広域消防組合の口頭指導により胸骨圧迫、AEDの使用)を作り実践していただきました。麻酔科・周術期チームでは手術前から実施できるプレハビリテーションの紹介、栄養ブースでは、管理栄養士による栄養相談と塩分・糖質などの食の情報展示・食育ミニゲームを行いました。臓器提供意思表示ブースでは、意思表示カードとリーフレットの配布や臓器の働きを学ぶコーナーを設置しました。当日は1000名以上の方にご参加いただきました。市民の皆さんのがんや安全の一助になればと期待しています。



受付の様子



タスケルンジャー ショー

Winner Report

5.17

第79回NPO法人日本口腔科学会学術集会において若手優秀ポスター賞を受賞しました

口腔外科学 医員 新子 寿未

5月16日から17日にかけて開催された第79回NPO法人日本口腔科学会学術集会において、「血友病Aにおける抜歯後出血リスク因子の多施設後方視的研究」を発表し、若手優秀ポスター賞を受賞しました。統計解析より、トラネキサム酸の投与が後出血のオッズを約70%減少させることが示され、またエミシズマブを用いた定期補充療法が、後出血を抑制し、從来よりも止血管理を容易にする可能性が示唆されました。

今回の受賞に際し、本研究にご協力いただいた多施設の先生方に深く感謝申し上げます。また、直接ご指導を賜りました柳生先生、そして多大なるご助力をいただいた山川先生に深謝いたします。

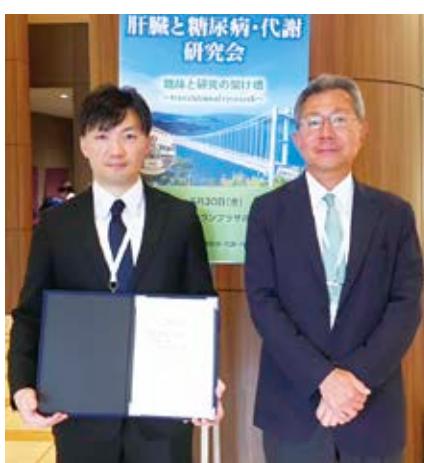


5.30

第11回肝臓と糖尿病・代謝研究会において Young Investigator Awardを受賞しました

消化器内科学 助教 岩井 聰始

この度、第11回肝臓と糖尿病・代謝研究会において、Young Investigator Awardを賜りました。受賞演題である「糖尿病合併肝硬変マウスを用いたGLP-1受容体作動薬によるサルコペニア治療の試み」は、博士課程の研究課題としてご指導いただいた成果の賜物であります。ここ数年間で本研究の成果を裏付けるような臨床データも報告され始めており、まさにBench-to-Bedsideに根差した研究である点をご評価いただいたと考えております。ご指導いただいた鍛治准教授、吉治教授、そして研究の場を与えてくださった本学全ての皆様にこの場を借りて感謝申し上げます。



6.4

第52回日本銅センター賞を受賞しました

微生物感染症学 准教授 中野 竜一

6月4日に東京都で開催された表彰式において、「新型コロナウイルスに対する銅および銅合金の抗ウイルス効果とそのメカニズムの解明」に関する業績が評価され、第52回日本銅センター賞を受賞いたしました。これまで未解明であった銅および銅合金による抗ウイルス効果の作用機序を明らかにし、その知見を基に抗ウイルス効果を最大限に発揮するマスクなどの製品開発へと発展させることができました。本研究に携わった研究室のメンバーならびに、製品開発にご協力いただいたやまと真空工業株式会社ならびにMBTコンソーシアムの皆様に、心より感謝申し上げます。



6.20

日本精神神経学会国際学会発表賞を受賞しました

精神医学 助教 池原 実伸

この度、5月23～26日に開催された The 35th CINP World Congress of Neuropsychopharmacologyにおいて「Effects of neuromodulation on local prefrontal circuits in mouse models for psychiatric disorders.」のタイトルで発表した演題を評価していただき、2025年度日本精神神経学会国際学会発表賞を受賞することができました。これは、複数の精神疾患モデルマウスを用いて、前頭前野局所回路への電気刺激が与える影響とその背景基盤を検討したもので、ニューロモデュレーションの神経生物学的メカニズムの解明に貢献し、精神疾患の新たな治療戦略としての可能性を示すものです。日頃より熱心にご指導いただきました山室和彦先生をはじめ、多くの先生方にこの場をお借りし深く感謝申し上げます。



6.21 第152回近畿産科婦人科学会学術集会において受賞しました

産婦人科学 助教 前花 知果

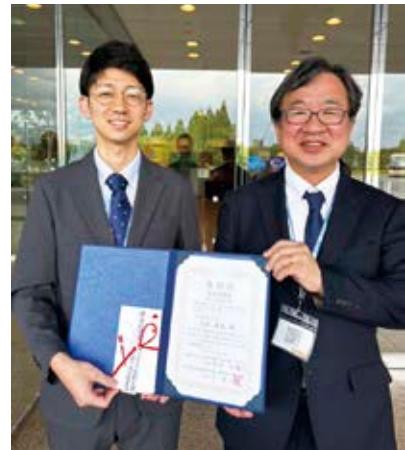
6月21日、22日に開催された第152回近畿産科婦人科学会学術集会において「心音図検査による新生児の動脈管自然閉鎖が心音に与える影響の検討」というタイトルで発表し、産科部門の優秀演題賞を受賞しました。

スクリーニングに引っ掛けられず発見の遅れる先天性心疾患を少しでも減らしたいという思いから開始した研究の初めての発表でした。

本演題の受賞に際し、ご指導いただきました木村教授、前川先生、本研究に関わってくださった皆様に感謝申し上げます。まだ一歩踏み出したばかりで継続が必要な研究なので、今回の結果を糧に今後も頑張ってまいります。

産婦人科学 医員 上林 潤也

6月21・22日に滋賀県びわ湖プリンスホテルで開催された第152回近畿産科婦人科学会学術集会に於いて「癌化学療法に伴う貧血に対するデルイソマルトース第二鉄の有効性」の演題発表を行い、婦人科腫瘍部門で優秀演題賞を受賞しました。木村教授、川口准教授をはじめ日頃よりご指導いただいている先生方にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。受賞を励みに今後ともより一層努力していきたいと存じます。



産婦人科学 医員 脇 啓太

第152回近畿産科婦人科学会学術集会に於いて、「妊娠初期の腔内細菌叢と周産期合併症の関連についての検討」に対して、産科部門の最優秀演題賞を受賞しました。

産婦人科学講座のホームページ「研究の紹介」にもあるように、我々は早産ゼロを目標に日々研究を進めてきました。今回の受賞を励みに、患者様に研究成果を1日でも早く提供できるよう、これからも日々精進していきたいと思います。

この場をお借りしてご指導いただきました木村文則教授、前川亮講師、産婦人科学講座の先生方に感謝申し上げます。



7.19 アジア婦人科腫瘍学会 (ASGO) 2025において Young Doctor Award を受賞しました

産婦人科学 助教 河原 直紀

7月17日～19日に開催されましたアジア婦人科腫瘍学会 (Asian Society of Gynecologic Oncology 2025 [ASGO 2025]) に参加し、「Inhibition of Glycolysis and Stimulation of Mitochondrial Biogenesis Induce Synthetic Lethality via Increased ROS Levels in HNF-1 β positive Clear Cell Carcinoma」と題した発表を行い、Young Doctor Award を受賞しました。当研究はがん細胞内にあるミトコンドリアを利用してがん細胞を駆逐する全く新しい概念の治療戦略です。当研究はもとより多大な御指導を賜っております当講座の木村文則教授および分子病理学教室の國安弘基教授、その他様々なスタッフの方のご理解とご援助を賜りましたことを心より感謝申し上げます。



Winner Report

9.11

第32回日本門脈圧亢進症学会総会で演題賞を受賞しました

医学科3年 堀内 大照

この度は第32回日本門脈圧亢進症学会総会において演題賞を受賞することができ、ご指導・ご鞭撻賜りました吉治教授、芝本先生をはじめ、多くの先生方に深謝いたします。先生方には臨床医学を本格的にまだ勉強していない私が学会発表できるように導いていただきました。リサーチクラークシップは私の研究への価値観を大きく変え、今後の人生を考える一助になりました。この経験を糧に、今後も一層精進してまいります。



発表中の質疑応答



授賞式(左)学会会長の吉治仁志教授(右)堀内

11.3

MBT特命教授コシノジュンコ先生が令和7年度 文化勲章を受章されました

令和7年度の文化勲章受章者8名が発表され、本学MBT特命教授のコシノジュンコ先生が文化勲章を受章されました。ファッションデザイナーの受章は、森英恵さん、三宅一生さんに続き3人目となります。11月3日には宮中において親授式が執り行われ、天皇陛下から文化勲章が親授されました。



講義を行うコシノジュンコ先生

The donation person name

寄附者ご芳名

「未来への飛躍」基金にご協力いただきありがとうございました

平素より未来への飛躍基金へのご理解とご支援をいただき、心から御礼申し上げます。今号では令和7年7月～令和7年9月にご寄附いただいた方々のご芳名を掲載しております。

【個人】

◆100万円以上

齊藤 弥穂 様

掲載を希望されない寄附者様 2名

◆10万円未満

北村 紀文 様 藤本千代子 様 本田 孝雄 様
掲載を希望されない寄附者様 9名

◆30万円以上100万円未満

嶋 緑倫 様 田中 康仁 様 土田 謙平 様
新居延忠昭 様 三上 洋 様

掲載を希望されない寄附者様 2名

◆金額の公表を希望されない寄附者様

紙谷 史夏 様 洲脇 直己 様 西原 聖次 様
福住 明夫 様 美登路 昭 様

◆10万円以上30万円未満

浅田 潔 様 齊藤 正幸 様 竹邑 利文 様
築村 佳典 様 峯 克彰 様

掲載を希望されない寄附者様 3名

【法人・企業】

◆100万円以上

医療法人 二昌会 様

◆10万円以上30万円未満

奈良県立医科大学労働組合 様

【奈良県立医科大学 総務広報課 未来への飛躍基金】

TEL : 0744-22-3051 (内線 2803) E-mail : hiyakukikin@naramed-u.ac.jp【未来への飛躍基金 HP】 <https://hiyakukikin.naramed-u.ac.jp> または「未来への飛躍基金」で検索！

公開講座情報

令和7年度自殺未遂者等支援拠点医療機関整備事業第12回関西ケース・マネジメントカンファレンス

日 時：令和8年1月29日(木) 午後4時～午後6時

場 所：完全オンライン開催 (Zoom配信)

講演1 「若年層の自殺対策をどう進めるか—堺市の実践と自殺対策基本法改正のポイント」

演者／堺市こころの健康センター 所長 西畠 陽介 先生

講演2 「子ども・若者の自殺未遂者の現状と支援の問題点」

演者／東海大学医学部 総合診療学系 精神科学 教授 三上 克央先生

【主催者からのご案内】

近年若年者の自殺が社会的な問題となっていますが、令和7年6月には自殺対策基本法の一部改正があり、自殺予防における学校の責務が追加されました。そこで今回の研修会では、若者の自殺予防をテーマに、お二人の先生からご講演をいただきます。本研修会を通して、若年者の自殺予防のために何ができるかについて考える機会になれば幸いです。是非とも、奮ってご参加ください。

対象者：自殺予防支援に関わる全ての方（先着300名） 参加費：無料

申し込み：右記のURLもしくは二次元バーコードからお申込みください。 <https://forms.gle/SJA8nA3DKfSNHKko9>

締切：2026年1月16日(金)

主催：関西自殺未遂者連絡協議会、和歌山県立医科大学（担当：岡村）、奈良県立医科大学（担当：池原）、近畿大学病院（担当：丹羽）



開学80周年記念及び畝傍山キャンパスオープン記念公開講座×「くらしと医学」

開学80周年と畝傍山キャンパスのオープンを記念して、学内外の様々な専門家を招いた公開講座を開催します。本講座は、本学が実施している「くらしと医学」との連携企画として、地域の皆様に医学と文化の魅力をお届けします。

日 時：令和8年2月22日(日) 13時～15時

場 所：奈良県立医科大学 畝傍山キャンパス 講堂

講演者：奈良文化財研究所 国際遺跡研究室 室長 庄田 慎矢
 奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス領域 准教授 渡辺 大輔
 奈良県立医科大学 医学科長・免疫学 教授 伊藤 利洋

対象者：県民

備考：事前申込み不要 参加無料

問合せ先：奈良県立医科大学 総務広報課 TEL：0744-22-3051 (内線2805)

令和8年度 入試日程【医学部】

大学入学共通テスト実施日 令和8年1月17日(土)・18日(日)

学科	入試区分	募集定員	出願期間	試験日	合格発表(予定)
医学科	推薦*1	36	令和7年12月17日(水)～12月19日(金)	令和8年1月31日(土)・2月1日(日)	令和8年2月10日(火)
	前期	22	令和8年1月26日(月)～2月4日(水)	令和8年2月25日(水)・2月26日(木)	令和8年3月5日(木)
	後期	53		令和8年3月12日(木)・3月13日(金)	令和8年3月23日(月)
看護学科	推薦*2	35	令和7年11月4日(火)～11月5日(水)	令和7年11月22日(土)	令和7年12月9日(火)
	前期*3	50	令和8年1月26日(月)～2月4日(水)	令和8年2月25日(水)・2月26日(木)	令和8年3月5日(木)
	後期			実施しません	

* 1 医学校校推薦型選抜は緊急医師確保特別入学試験 15名と地域枠入学試験 21名を募集します。

* 2 看護学校校推薦型選抜は地域枠のみ募集します。

* 3 看護学科一般選抜（前期日程）は、一般枠 40名と地域枠 10名を募集します。

詳しくはホームページで確認してください (<https://www.naramed-u.ac.jp/university/nyushijoho/index.html>)

看護学校校推薦型選抜学生募集要項は9月下旬から配布中です。

医学学校校推薦型選抜学生募集要項は11月中旬、その他の募集要項は12月上旬から配布予定です。

Media Listing Information

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、記事を掲載された教職員・学生を紹介します。

日付	媒体	対象者		掲載概要
2025年 7月 30日 7月 31日 8月 2日 8月 3日 8月 4日 8月 5日 8月 7日 8月 8日 8月 13日	中國新聞 神戸新聞 宮崎日日新聞 千葉日報 山陰中央新報 愛媛新聞 日本海新聞 下野新聞 東京新聞	呼吸器内科学	教 授 室 繁郎	かつて肺気腫や慢性気管支炎と呼ばれた COPD（慢性閉塞性肺疾患）について、隠れ患者が多く、放置する人が多い現状に、早期の治療の重要性と新たな薬の登場でさらなる治療効果が期待できることを呼びかけ
8月 12日	NHK 総合 へんてこ生物アカデミー		名誉教授 大崎 茂芳	夏休み特番 「へんてこ生物から人生を豊かにするヒントを学ぶ」
8月 14日	NHK E テレ きょうの健康	血液内科学	教 授 松本 雅則	ニュース「血液が足りなくなる!? どう確保する?」
8月 28日	読売新聞		理事長・学長 細井 裕司	医学知識活用や健康教育へ協定 県立医大などと飛鳥 FC
8月 28日	奈良新聞		理事長・学長 細井 裕司	県医大など、飛鳥 FC と協定 スポーツで健康づくり
8月 29日	奈良新聞	脳神経内科学	診療助教 塩田 智	宇陀市民公開講座「今知りたい認知症のこと～見逃さないで、MCI（軽度認知障害）」早期発見・治療が重要
9月 9日	朝日放送テレビ news おかえり	化学 血液内科学	教 授 酒井 宏水 教 授 松本 雅則	奈良県立医科大学附属病院での備蓄・緊急投与が可能な人工赤血球製剤の第一相臨床試験実施について
9月 16日	NHK クローズアップ現代	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	助 教 森本 千裕	明治生まれ最後の 5 人 令和のあなたに送る言葉
9月 20日	産経新聞 (Web)	公衆衛生学	教 授 今村 知明	ゴキブリ混入の天下一品、お粗末すぎる害虫対策 京都市内 16 店の半数が行政指導対象に
9月 21日	産経新聞	公衆衛生学	教 授 今村 知明	「天一」ずさんな害虫対策 京都市内 16 店 半数に行政指導
9月 22日	NHK 奈良 ならナビ ならナビ 845	睡眠医療・呼吸管理センター	理事長・学長 細井 裕司 附属病院長 吉川 公彦 センター長 山内 基雄	奈良県立医大 睡眠時無呼吸症候群など最新の治療センター設置
9月 23日	奈良テレビ TVN ニュース	睡眠医療・呼吸管理センター	理事長・学長 細井 裕司 附属病院長 吉川 公彦 センター長 山内 基雄	県立医大附属病院 睡眠医療・呼吸管理センター開設
9月 23日	読売新聞	睡眠医療・呼吸管理センター	理事長・学長 細井 裕司 附属病院長 吉川 公彦 センター長 山内 基雄	睡眠障害 診療科横断し協力／県立医大 センター開設
9月 30日	NHK 奈良 ならナビ		理事長・学長 細井 裕司	万博で音伝える「軟骨伝導」体験会 奈良県立医科大学が開発
10月 2日	読売テレビ かんさい情報ネット ten.	公衆衛生学	教 授 今村 知明	厳しい病院経営が伝えられる中、「医療」を守るために必要なことについて考えます
10月 3日	朝日新聞		理事長・学長 細井 裕司	大阪・関西万博 '25 未来の健康の音 聞こえる けいはんな万博催し 県立医大が参加

メディア掲載情報をお寄せください

総務広報課 内線：2206

編集後記

朝夕の冷え込みに秋の深まりを感じるこの頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。本号の発行にご協力くださった皆様に心より感謝申し上げます。学報では、教職員の皆様からの記事を随時募集していますので、掲載をご希望の方は総務広報課までご連絡ください。

